

## カップルの恋愛類型と相性に関する研究

栗林 克 匡

目 次  
問 題  
方 法  
結 果  
考 察

### 問 題

Lee (1974) は恋愛行動を6つの類型に分類する色彩理論を提唱した(図1)。恋愛をゲームと捉え、楽しむことを大切に考える遊戯的愛の“ルダス”, 恋愛を地位の上昇などの恋愛以外の目的を達成するための手段と考えている実利的愛の“プラグマ”, 長い時間をかけて愛が育まれる穏やかな友情的な恋愛の“ストルゲ”, 相手の利益だけを考え、相手のために自分自身を犠牲にすることも厭わない無償愛の“アガペ”, 相手の外見に強烈な反応を起こし、ロマンチックな考えや行動をとる恋愛至上主義的愛の“エロス”, 恋愛に熱中し、独占欲・嫉妬心が強く、憑執・悲哀などの激しい感情を伴う狂氣的愛の“マニア”の6つである。Hendrick & Hendrick (1986) は、Lee

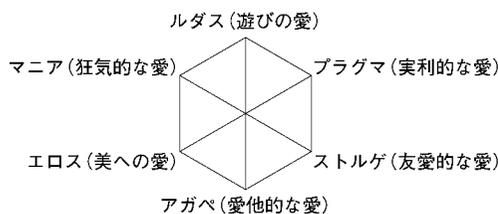


図1 Leeの恋愛関係の類型論

の恋愛類型を測定する尺度(LAS: Love Attitudes Scale)を開発し、Hendrick, Hendrick, & Adler (1988) は、このLASと恋愛関係における満足度や自尊感情などとの関連性を検討した。その結果、男女ともにエロスが高い者ほど、関係の満足度が高まり、ルダスの高い者ほど満足度が低下していた。また女性においてのみマニアが高いと満足度が低下していた。日本人の恋愛類型に関する研究としては、松井・木賊・立澤・大久保・大前・岡村・米田(1990)が、Hendrick & Hendrick (1986)のLASを参考にして、恋愛類型尺度(LETS-2)作成している。大学生を対象にこの尺度を実施したところ、男性は女性よりもアガペの尺度得点が有意に高く、ルダスとプラグマの尺度得点が有意に低いといった結果を得ている。また、恋愛類型と恋愛関係における行動段階や親密さとの関係については、中村(1991)や松井(1993a)の研究で検討されている。中村(1991)は、大学生の異性関係の親密度と恋愛類型との関係を検討した。その結果、低親密群(恋人以下の関係)に比べて高親密群(最愛の人)は、エロス、アガペ、ストルゲが高いことが分かった。松井(1993a)は、恋愛行動の段階と恋愛類型との関係を検討した。恋愛行動の段階は松井(1990)を基に5つに分類した上で、LETS-2得点の平均値を比較している。その結果、「①エロス得点は恋愛行動の段階が上がるにつれて高まっていた。女性においては、マニアとアガペ得点も同様の傾向が認められている。②ルダスは、キスをしたり、ボーイフレンド・

キーワード: Leeの恋愛類型, カップル, 相性

ガールフレンドとして友人に紹介する段階までは強まるが、恋人以上の関係になると弱まる。③ストルゲは恋愛初期で高まるが、結婚の約束にいたる段階では弱まる。④プラグマは恋愛行動の進展によってほとんど変化しない」といったことが明らかとなった。これら先行研究の結果に共通することは、エロスが恋愛関係の進展と関連があるという点を挙げることができよう。

さて松井(1993b)によると、色彩理論では類型どうしの位置関係も重要な意味を持つという。図1をみると、ルダスとアガペ、プラグマとエロス、マニアとストルゲはそれぞれ対極に位置しており互いに相手の恋愛を理解できないと考えられている。恋をゲームと考えるルダスにとっては、奉仕的なアガペの恋人は鬱陶しく重荷に感じるだろうし、つきあっても楽しいと感じられないことが予測される。また恋愛を道具に使うプラグマと恋愛至上主義のエロス、穏やかなストルゲと強烈なマニアも互いに理解しがたいと思われる。端的に言うと、対極の恋愛観を持つ者どうしは相性が悪いといえよう。しかし、この点については十分な検討が行われているとは言いがたい。

ところで広辞苑(第5版)によると、相性とは「共に何かをする時、自分にとってやりやすいかどうかの相手方の性質」とある。ただしこの場合は、対戦相手や人間以外のモノも相性の対象となりうる。恋愛関係にある2者に注目する場合、相性をどう捉えたらよいだろうか。本研究では、「相性がよい」ということを、「二者の関係において、相手との息がぴったりで、相手に対する不快感をもたずに満足している状態で安定していること」と考えることにする。

本研究では、実際に現在交際中のカップルを対象として、それぞれの恋愛類型を測定し、二者の関係の相性が恋愛類型によってどのように変化するのかを検討する。仮説は以下の

通りである。①マニアとストルゲ、エロスとプラグマ、ルダスとアガペの対極タイプの組合せのカップルは、お互いの恋愛態度を理解できないため、お互いの相性を低く評価するだろう。②同類型のカップルは、恋愛に対する態度が類似しているため、お互いの相性を高く評価するだろう。

## 方 法

### 被験者：

恋愛関係にあるカップル54組108名。なお、質問紙を配布した総数は150組300名であり、そのうち回収できたのは男性68名・女性70名の計138名であった。恋愛関係にあるカップル両者の回答が揃った54組が分析対象となっている。

### 質問紙の構成：

- ①基本的属性：性別、年齢、職業について記入させた。
- ②交際状況：交際期間、会う頻度、1回あたり一緒に過ごす時間などを尋ねた。
- ③自分の恋愛類型：松井ら(1990)のLETS-2尺度の因子分析で各類型への因子負荷量の高かった3項目ずつ、計18項目を5段階で評定させた。各類型の得点は3項目の合計値を用いた。
- ④交際相手の恋愛類型の推測：③と同項目について交際相手の恋愛類型を推測して回答(本報告では未使用)。
- ⑤カップルの相性：中村(1991)を参考に「関係に対する満足感」、「相手に対する満足感」、「相手に対する好意」の3項目を作成し、それに「相性がよい」「息がぴったりである」「関係が安定している」の3項目を加えた計6項目9段階の尺度を、2人の関係の相性として捉えた。

### 手続き：

質問紙の配布は、カップルの1人に自分用と交際相手用の質問紙の入った封筒を渡し

た。回収は、同封した2つの返送用封筒を使い、お互いの回答が分からないように別々に郵送させた。なおカップルが同定できるようにあらかじめ質問紙はナンバリングしてあった。

## 結 果

### 1. 被験者の属性について

被験者の約8割が大学生で、残りは社会人や専門学校生などであった。平均年齢は、男21.80歳、女21.00歳であった。平均交際期間は19.57ヶ月(約1年8ヶ月)。1週間に会う回数の平均は3.88回。1回あたり一緒に過ごす時間の平均は528.00分(約9時間)であった。

### 2. 恋愛類型の組合せがカップルの相性に及ぼす影響

男女毎にカップルの相性に関する6項目の合計値を求めた(項目間の相関は $r = .40 \sim .70$ )。また6つの恋愛類型の平均値を男女毎に求め、それぞれ平均値を基準に各類型低群と高群に分けた。なお各尺度得点のカップルの性差を対応のあるt検定にて検討したところ(表1)、男性は女性よりもアガベ得点が高く( $t(53) = 4.01, p < .001$ )、女性は男性よりもストルゲ得点が高かった( $t(53) = 2.68, p < .01$ )。

カップルの相性について、男性類型(高・低)×女性類型(高・低)×回答者の性別(男・女)の3要因分散分析を行った。カップル単

表1 性別のLETS-2得点の平均値・SDとt値

	男性	女性	t値
マニア	10.70 (2.89)	10.56 (2.91)	0.29
ストルゲ	7.63 (2.94)	8.91 (3.51)	2.68**
エロス	11.65 (2.33)	11.56 (2.26)	0.28
プラグマ	6.06 (2.59)	6.52 (2.14)	1.16
ルダス	7.07 (2.39)	7.43 (2.79)	0.74
アガベ	10.09 (2.61)	8.26 (2.37)	4.01***

※ ( ) 内はSD    \*\* $p < .01$     \*\*\* $p < .001$

位で分析を行っているためケース数は54である。条件別の平均値を表2～表13に示した。

### ①男女の恋愛類型が同類型の組合せの場合

男性マニア-女性マニアの組合せでは、有意な結果は得られなかった(表2)。

男性ストルゲ-女性ストルゲでは、女性ストルゲ×回答者性別の交互作用が有意で( $F(1,50) = 5.03, p < .05$ )、女性の相性評定において、女性ストルゲ高低群の差が顕著で、ストルゲ高群は低群よりも大きかった(表3)。

男性エロス-女性エロスでは、男性エロス( $F(1,50) = 17.36, p < .001$ )および女性エロス( $F(1,50) = 26.10, p < .001$ )の両主効果が有意で、どちらもエロスが高いほどカップルの相性が高かった。また男性エロス×回答者性別の交互作用( $F(1,50) = 6.52, p < .05$ )および女性エロス×回答者性別の交互作用( $F(1,50) = 8.71, p < .01$ )が有意で、男性の低エロス群で男性の相性評定値は低く、女性の低エロス群で女性の相性評定値が低かった(表4)。

男性プラグマ-女性プラグマでは、女性プラグマ×回答者性別の交互作用が有意で( $F(1,50) = 10.72, p < .01$ )、女性プラグマ高群の女性の相性評定が他群より低かった(表5)。

男性ルダス-女性ルダスでは、女性ルダスの主効果が有意で( $F(1,50) = 8.52, p < .01$ )、女性ルダスが低い方がカップルの相性が高かった。また女性ルダス×回答者性別の交互作用も有意で( $F(1,50) = 7.07, p < .05$ )、女性の相性評定において女性ルダスの高低群間の差が顕著であった(表6)。

男性アガベ-女性アガベでは、男性アガベの主効果が有意で( $F(1,50) = 6.15, p < .05$ )、男性のアガベが高いほどカップルの相性の評定値が高かった(表7)。

表 2 男性マニア×女性マニア×回答者の性別の“相性”の評定平均値と SD

	男性マニア低群		男性マニア高群	
	女性マニア低群	女性マニア高群	女性マニア低群	女性マニア高群
男性評定	44.92 (7.95)	45.00 (6.80)	43.13 (7.49)	43.93 (7.69)
女性評定	44.08 (8.53)	45.55 (4.39)	41.88 (7.10)	45.20 (7.34)

表 3 男性ストルゲ×女性ストルゲ×回答者の性別の“相性”の評定平均値と SD

	男性ストルゲ低群		男性ストルゲ高群	
	女性ストルゲ低群	女性ストルゲ高群	女性ストルゲ低群	女性ストルゲ高群
男性評定	46.61 (7.06)	41.85 (7.55)	40.60 (8.79)	44.28 (6.76)
女性評定	43.33 (8.55)	44.54 (4.91)	40.60 (9.24)	45.33 (6.17)

表 4 男性エロス×女性エロス×回答者の性別の“相性”の評定平均値と SD

	男性エロス低群		男性エロス高群	
	女性エロス低群	女性エロス高群	女性エロス低群	女性エロス高群
男性評定	37.00 (8.25)	41.67 (8.65)	45.25 (3.44)	48.62 (3.73)
女性評定	36.00 (6.13)	47.67 (5.02)	41.42 (6.13)	48.57 (3.06)

②男女の恋愛類型が対極類型の組合せの場合

男性マニア×女性ストルゲでは、男性マニア×女性ストルゲの交互作用が有意傾向 ( $F(1,50)=3.27, p<.08$ ) であった。両類型ともに低群の場合に最も相性評定が高かった。また女性ストルゲ×回答者性別の交互作用が有意で ( $F(1,50)=6.01, p<.05$ )、女性ストルゲが低いと、男性は相性を高く、女性は低く評定していた (表 8)。

男性ストルゲ×女性マニアの組合せでは、有意な結果は得られなかった (表 9)。

男性エロス×女性プラグマでは、男性エロス ( $F(1,50)=23.51, p<.001$ ) および女性プラグマ ( $F(1,50)=4.63, p<.05$ ) の両主効果が有意で、男性のエロスが高いほど、女性のプラグマが低いほどカップルの相性が高かった。また女性プラグマ×回答者性別の交互作用が有意で ( $F(1,50)=10.08, p<.01$ )、特に女性の相性評定において女性プラグマの

表 5 男性プラグマ×女性プラグマ×回答者の性別の“相性”の評定平均値と SD

	男性プラグマ低群		男性プラグマ高群	
	女性プラグマ低群	女性プラグマ高群	女性プラグマ低群	女性プラグマ高群
男性評定	43.63 (8.03)	43.42 (6.91)	43.75 (8.08)	46.50 (6.00)
女性評定	45.96 (6.07)	40.33 (8.95)	46.00 (4.90)	42.30 (6.78)

表 6 男性ルダス×女性ルダス×回答者の性別の“相性”の評定平均値と SD

	男性ルダス低群		男性ルダス高群	
	女性ルダス低群	女性ルダス高群	女性ルダス低群	女性ルダス高群
男性評定	45.75 (6.61)	44.86 (8.21)	44.27 (6.65)	39.22 (7.36)
女性評定	47.00 (5.43)	40.43 (8.46)	47.18 (4.05)	39.22 (6.08)

表 7 男性アガベ×女性アガベ×回答者の性別の“相性”の評定平均値と SD

	男性アガベ低群		男性アガベ高群	
	女性アガベ低群	女性アガベ高群	女性アガベ低群	女性アガベ高群
男性評定	41.11 (8.38)	45.20 (4.64)	46.69 (5.91)	44.92 (8.08)
女性評定	39.83 (7.41)	44.40 (6.11)	46.92 (5.60)	46.69 (6.17)

高低群間の差が顕著であった (表 10)。

男性プラグマ×女性エロスでは、女性エロスの主効果が有意で ( $F(1,50)=27.23, p<.001$ )、女性エロス高群ではカップルの相性は高かった。女性エロス×回答者性別の交互作用も有意で ( $F(1,50)=5.48, p<.05$ )、特に女性の相性評定において女性エロスの高低群間の差が顕著だった (表 11)。

男性ルダス×女性アガベの組合せでは、有意な結果は得られなかった (表 12)。

男性アガベ×女性ルダスでは、女性ルダスの主効果が有意で ( $F(1,50)=5.36, p<.05$ )、女性のルダスが低いほど両者の相性評定は高かった。女性ルダス×回答者性別の交互作用も有意で ( $F(1,50)=5.19, p<.05$ )、特に女性の相性評定において女性ルダスの高低群間の差が顕著だった (表 13)。

表 8 男性マニア×女性ストルゲ×回答者の性別の“相性”の評定平均値とSD

	男性マニア低群		男性マニア高群	
	女性ストルゲ低群	女性ストルゲ高群	女性ストルゲ低群	女性ストルゲ高群
男性評定	48.13 (7.86)	43.27 (6.55)	43.80 (7.40)	43.25 (7.77)
女性評定	46.75 (8.46)	43.73 (5.71)	40.60 (8.09)	46.19 (5.41)

表 9 男性ストルゲ×女性マニア×回答者の性別の“相性”の評定平均値とSD

	男性ストルゲ低群		男性ストルゲ高群	
	女性マニア低群	女性マニア高群	女性マニア低群	女性マニア高群
男性評定	43.75 (8.67)	45.53 (6.27)	44.08 (6.26)	42.82 (8.36)
女性評定	42.56 (7.89)	45.20 (6.30)	43.17 (7.71)	45.55 (6.25)

表 10 男性エロス×女性プラグマ×回答者の性別の“相性”の評定平均値とSD

	男性エロス低群		男性エロス高群	
	女性プラグマ低群	女性プラグマ高群	女性プラグマ低群	女性プラグマ高群
男性評定	39.40 (8.73)	38.00 (8.74)	47.41 (4.74)	47.38 (3.01)
女性評定	43.67 (7.15)	34.33 (6.74)	48.00 (3.06)	43.81 (6.81)

### 3. 恋愛類型のクラスターに基づく組合せがカップルの相性に及ぼす影響

本研究の被験者 108 名の LETS-2 の 6 尺度の得点から恋愛類型のパターンを特定するために、各尺度の得点を平均 0、分散 1 に標準化した後に、Ward 法によるクラスター分析を行った。その結果、解釈可能性を考慮し 4 つのクラスターを抽出した。各クラスター毎に LETS-2 の 6 尺度の平均値と標準偏差を求めて表 14 にまとめた。また標準化後の得点を用いた各クラスターのパターンを図 2 に示す。第 1 クラスターはストルゲの値の高さが特徴的であり、“ストルゲ型”恋愛といえよう。第 2 クラスターはプラグマとルダスの値が高い“自己利益型”恋愛とみなせる。第 3 クラスターは、エロス・アガペ・マニアが平均 0 を上回っており、またストルゲとルダスが低いという特徴がある、“相手没入型”といえよう。第 4 クラスターは全てが平均 0 を下

表 11 男性プラグマ×女性エロス×回答者の性別の“相性”の評定平均値とSD

	男性プラグマ低群		男性プラグマ高群	
	女性エロス低群	女性エロス高群	女性エロス低群	女性エロス高群
男性評定	40.38 (7.59)	46.10 (6.70)	42.63 (7.52)	47.40 (5.95)
女性評定	38.44 (7.51)	48.60 (3.38)	39.25 (4.68)	47.70 (4.37)

表 12 男性ルダス×女性アガペ×回答者の性別の“相性”の評定平均値とSD

	男性ルダス低群		男性ルダス高群	
	女性アガペ低群	女性アガペ高群	女性アガペ低群	女性アガペ高群
男性評定	44.74 (7.77)	46.20 (6.58)	41.42 (7.86)	42.88 (6.69)
女性評定	42.47 (8.25)	46.60 (5.84)	43.33 (6.47)	44.00 (6.65)

表 13 男性アガペ×女性ルダス×回答者の性別の“相性”の評定平均値とSD

	男性アガペ低群		男性アガペ高群	
	女性ルダス低群	女性ルダス高群	女性ルダス低群	女性ルダス高群
男性評定	44.58 (5.45)	41.06 (8.50)	45.63 (7.27)	46.29 (6.68)
女性評定	45.50 (3.78)	38.44 (7.77)	48.05 (5.37)	43.43 (5.86)

回っており、“無関心型”恋愛といえよう。

性別に各クラスターの人数を求めたところ、ストルゲ型同士のカップルが 7 組、自己利益型同士が 8 組、相手没入型同士が 5 組で、無関心型同士は 0 組であった。その他の、異なるクラスターの混在型カップルは 34 組であった (表 15)。

恋愛類型のクラスターに基づく組合せがカップルの相性に及ぼす影響を検討するために、以下の分析ではカップル単位で、相性を従属変数とした、クラスター組合せ (ストルゲ型・自己利益型・相手没入型・混在型) × 回答者の性別の 2 要因分散分析を行った (表 16)。

その結果、クラスター組合せの主効果のみ有意であった ( $F(3,50)=2.95, p<.05$ )。平均値は、値の小さい方から、自己利益型 (41.06)、混在型 (43.28)、ストルゲ型 (47.79)、相手没入型 (49.20) であった。LSD 法による

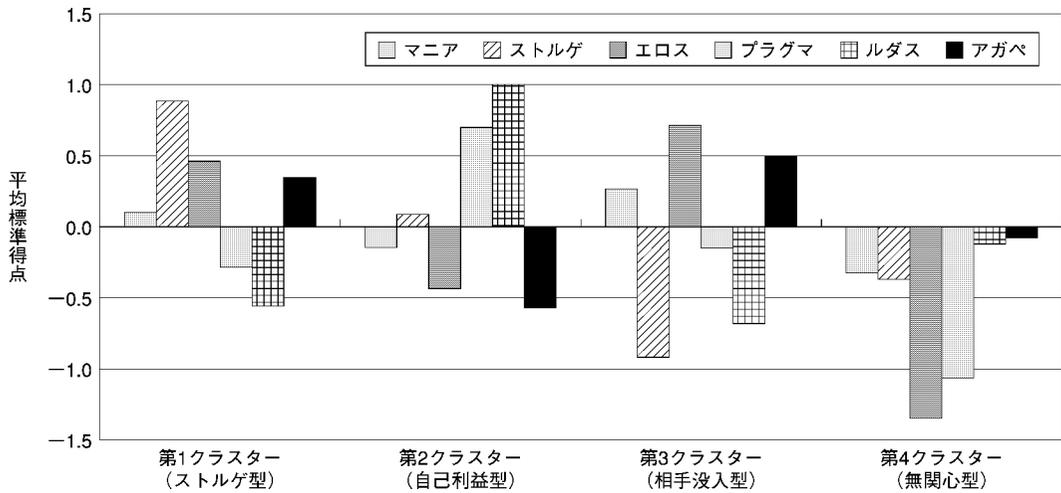


図 2 LETS-2 (標準化後) のクラスターパターン

表 14 各クラスター別のLETS-2尺度得点平均値およびSD

	第1クラスター ストルゲ型 (N=31)	第2クラスター 自己利益型 (N=38)	第3クラスター 相手没入型 (N=27)	第4クラスター 無関心型 (N=12)
マニア	10.90 (3.38)	10.18 (2.84)	11.37 (2.19)	9.67 (2.90)
ストルゲ	11.13 (2.14)	8.50 (3.12)	5.22 (1.67)	7.00 (2.34)
エロス	12.65 (1.50)	10.58 (2.13)	13.22 (1.22)	8.50 (1.57)
プラグマ	5.58 (1.34)	7.92 (1.92)	5.93 (2.80)	3.75 (1.06)
ルダス	5.81 (1.80)	9.82 (2.01)	5.44 (1.25)	6.92 (1.62)
アガベ	10.06 (2.53)	7.63 (2.26)	10.44 (2.22)	8.92 (2.71)

表 15 性別×クラスターの人数

	女 性			
	ストルゲ型	自己利益型	相手没入型	無関心型
男性				
ストルゲ型	7	4	1	1
自己利益型	2	8	2	2
相手没入型	6	7	5	0
無関心型	3	5	1	0

表 16 クラスター間の相性評定の平均値とSD

	ストルゲ型	自己利益型	相手没入型	混在型
男性評定	46.29 (5.68)	41.25 (8.22)	50.20 (2.39)	43.47 (7.53)
女性評定	49.29 (3.30)	40.88 (7.08)	48.20 (4.87)	43.09 (7.23)

多重比較の結果、カップルの男女の恋愛類型が同型であっても、自己利益型に比べてストルゲ型・相手没入型の相性は高かった。また混在型と比較して相手没入型カップルの相性が高かった。

## 考 察

Lee の恋愛類型の組合せの分散分析の結果から、男女ともにエロスの主効果が強く現れておりエロスの高さが両者の相性評定を高めていた。特に高エロスどうしが組合わさるカップルの相性は高かった。これは、Hendrick ら (1988)、中村 (1991)、松井 (1993 a) の知見に沿う結果といえよう。また、女性のルダスの主効果は同類型・対極類型の組合せの両方でみられており、女性のルダスの高さは相性を低めていた。あと全体的に、女性の恋愛類型×回答者性別の有意な交互作用が多く、女性の相性評定には女性自身の恋愛類型が影響しているが、男性の相性評定には影響しないことが明らかとなった。

ただし、男性の恋愛類型×女性の恋愛類型の有意な交互作用がほとんど見られておらず、同類型の高群どうしの組合せで相性が高

く評価されたり、対極類型の高群どうしの組合せで相性が低く評価されるという仮説は十分には支持されなかったといえよう。

その理由としては、まず第1に調査方法上の問題点が挙げられる。質問紙を一方の人に手渡ししてもらうため、そもそも関係が良好なカップルのみが調査対象者となった可能性がある。

第2に、6つの恋愛類型の付置が図1のような各類型を頂点とする六角構造になっていない可能性がある。松井(1993a)は6恋愛類型の相互関係を検討するためにLETS-2の主成分分析と多次元尺度構成法により検討している。前者の分析の結果は、第1主成分にマニア・エロス・アガペが正の負荷、第2主成分にプラグマ・ルダスが正の負荷、第3主成分にプラグマが正の負荷でストルゲが負の負荷を示した3成分が得られた。後者の分析結果は、図3に示すとおりエロス・アガペ・マニアが近接しており、残りは各象限に分散していた。このことから、恋愛類型は「エロス・アガペ・マニア」と他の3類型を頂点とする四角構造か三角錐のような構造が妥当と考察している。そうになると、そもそも対極構造を想定して相性を考えることは困難なのかもしれない。

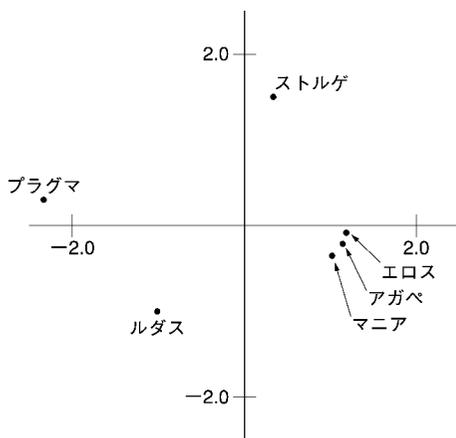


図3 LETS-2の多次元尺度構成法の結果 (松井, 1993a)

本研究でクラスター分析を行ったところ、恋愛類型パターンとして、エロス・アガペ・マニアのまとまった点は松井(1993a)と同様であったが、その他のパターンはやや異なったものであった。LETS-2の6尺度の得点の高低で組み合わせるのではなく、クラスター分析を行った上で各個人の恋愛類型パターンを定めて、その上で同パターン・カップルと異パターン・カップルの相性を比較してみた。その結果、ストルゲ型・相手没入型は自己利益型のカップルよりも相性がよいことが分かり、単に両者の恋愛類型パターンが同型であれば良いというわけではないことが示された。また相手没入型カップルは異なったパターン同士の組み合わせる混合型のカップルに比べると相性が高い。エロス・アガペ・マニアの特徴をもつ相手没入型カップルは、お互いに相手のことを第一に考えており、そのことが両者に心地よい相互作用を生み出すことになるのだろう。

今後の課題として、第1に恋愛類型の組合せパターンを拡張して検討することが考えられる。同類型と対極類型の組合せだけでなく、例えば、アガペープラグマやルダスープラグマといった組合せの中にもっと相性のよい(あるいは悪い)ものがあるかもしれない。第2に、恋愛関係にある被験者をカップル単位で分析した研究自体が少ないことが挙げられる。そのような現状の中で、和田・山口(1999)は恋愛関係にあるカップルの社会的交換モデルの比較検討を行い、カップル単位の分析の重要性を指摘している。本研究は、ある時点でのカップルのデータだったが、可能ならば、縦断的にデータを収集して恋愛類型と相性の変化を見ることも興味深い。

※本研究の一部は、日本社会心理学会第46回大会で発表された。

※本研究の実施にあたり、原絵美氏の協力を得ました。記して感謝いたします。

[引用文献]

- Hendrick, C. & Hendrick, S. 1986 A theory and method of love. *Journal of Personality and Social Psychology*, 50, 392-402.
- Hendrick, S.S., Hendrick, C., & Adler, N.L. 1988 Romantic relationships: love, satisfaction, and staying together. *Journal of Personality and Social Psychology*, 54, 980-988.
- Lee, J.A. 1974 The styles of loving. *Psychology Today*, 44-51.
- 松井 豊 1990 青年の恋愛行動の構造 心理学評論, 33, 355-370.
- 松井 豊 1993a 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64, 335-342.
- 松井 豊 1993b 恋ごろの科学 サイエンス社.
- 松井 豊・木賊知美・立澤晴美・大久保宏美・大前晴美・岡村美樹・米田佳美 1990 青年の恋愛に関する測定尺度の構成 東京都立立川短期大学紀要, 23, 13-23.
- 中村雅彦 1991 大学生の異性関係における愛情と関係評価の規定因に関する研究 実験社会心理学研究, 31, 132-146.
- 和田 実・山口雅敏 1999 恋愛関係における社会的交換モデルの比較：カップル単位の分析 社会心理学研究, 15, 125-136.

[Abstract]

## Love Types and Compatibility of Couples in Romantic Relationships

Yoshimasa KURIBAYASHI

Lee(1974) classified love into six types. This study examines the relevance between a combination of the Lee's love types and the compatibility of romantic couples, analyzing the couple as a unit. The participants, 54 couples, were asked about LETS-2 (Lee's love type scale 2<sup>nd</sup> version), which was developed by Matsui, et al. (1990), and six items of compatibility. As a result, the main effect of Eros strongly appeared in both men and women. The higher couples rated the Eros scale, the higher the compatibility rating. In addition, Ludus of a woman lowered the compatibility of couple. The love type of women influenced the compatibility rating of the woman herself, but did not influence male compatibility. Other results did not support the hypothesis that a couple with the same love type had good compatibility and that couples with opposite types had bad compatibility. Based on cluster analysis by love type pattern, compatibility of a "partner-devotion" couple was evaluated highly.